

臨調基本答申粉碎・57.11ダイヤ改悪阻止 8.4 動労千葉総決起集会かちとる

日刊 動労千葉

82.8.7

No. 1116

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八会衆) 留五七二七三〇七

国鉄労働運動解体攻撃に

総力で反撃しよう!

中野書記長の基調提起

7月30日に出された臨調の基本答申こそ、国鉄労働運動解体攻撃であり、動労千葉は直ちに臨調会館への抗議行動と、全支部での抗議集会をかちとった。

そして8月4日、全支部から115名の役員・活動家を結集し、千葉運転区において「臨調基本答申粉碎、57.11ダイヤ改悪反対、仲裁々定完全実施要求、8.4総決起集会」を開催し、この国鉄労働運動解体攻撃に総力をあげて反撃していくことを確認した。

そのためには「情勢認識と闘う方針」の意志一致がきわめて重要であり、『日刊動労千葉』は、8.4総決起集会における中野書記長の基調報告の要旨を掲載するので、各支部での学習用等に積極的に利用していただきたい。

戦争の遂行できる国家体制づくりを狙う

オニ臨調の狙いは、一昨年の選挙での自民党の圧勝と反政府運動の停滞という状況の中で、軍事大国化・改憲攻撃を強める日帝・鈴木が財政破綻を解決し、平和憲法に象徴される国家体制から戦争の遂行できる国家体制につくりかえようとするものである。

基本答申の特徴は、「自立の精神」「国の安全を守らねばならない」との理念をもち込みながら、「だから国家の大改造をしなければならぬ。そのためには国民は耐えろ、がまんしろ、どうすれば日本は良くなり再建できる」とし、具体的には「国鉄を改造する」と

いうことだけ書いてある。

国鉄労働運動解体に焦点

日帝は、日本労働運動の最強部隊「国鉄労働運動をつぶせば国家大改造計画を成し遂げられると考えている。国鉄労働運動に対する攻撃は今に始まったものではない。かつてのマル生攻撃は、国鉄労働者の決死的反撃で粉碎されたが、それは70年安保・沖繩闘争の高揚の中で押された。しかし、

今は国会を包囲するような状況がなく日教組の大会が会場で開けないような社会状況である。残っているのは国鉄労働運動に代表される戦術的労働運動と、17年間にわたる



役員・活動家115名が参加。中野書記長より「時間半の基調報告がなされた(於千葉会館)」

不屈の東力闘争・全人民女闘の若「三里塚のみである。支配階級はここを叩きつぶすことに勝負をかけてきている。自民党は来年の選挙に圧勝し「労統」を実現し、自民党を支える労働者の集団をつくり出そうとしている。従って、それは国鉄が最大の焦点となる。

基本答申は「国鉄は国家財政破綻の縮小した姿であり、国鉄の再建こそ国家の再建である」と述べているように、それは国鉄労働運動を根底的に叩きつぶしていくということだ。去年からの「ヤミ・カラ」国鉄「赤字」キャンペーンの展開に対し、緒戦で労働組合が首を引くため反撃しなかつたために、敵は力サにかかってそこを狙って攻撃を集中・激化させてきた。(裏々続々)

「手当」は労働者の当然の要求

国鉄労働者の賃金はあまりにも安すぎるのであり、超勤や手当を要求するのがなぜ悪いのか。労働組合は日常的に労働者の労働条件をあげるのは当たり前であり、「超勤や旅費」をもらってなぜ悪い」と聞き直る労働組合がない。我々は労働時間の短縮を要求しているが、もっと休みをよこせと言うことだ。つまり夏季休暇は時間短縮のことである。こういう立場がないからやられてしまったのである。

国鉄労働運動解体の決意を固めた当局

オニ臨調は、「民営・分割」の答申とさし当り緊急11項目の措置」をやつていくことを発表し、既に当局は「職場規律の厳正」「フル・トレ旅費の返却要求」「57.11合理化提案」をやつてきている。

6月25日発表された自民党交通部会案は、臨調答申を尊重した上で自民党としてどうするかというもので、国鉄当局は「これでやる」と決定した。

すなわち国鉄当局は、国鉄の企業努力・合理化の促進等の条件をつけた「民営・分割」、長期債務のタナ上げ、年金の公社公務員との統合を骨子とする自民党案に、こんなありがたい事は無いと侮びつき、労働組合と協調してやつていこうという官僚を左遷し、太田知行本社職員局長を中心とする連中が乗り出してきている。

情況は、政府・自民党・オニ臨調・国鉄当局の各々の利害関係が対立している部分もあるが、国鉄労働運動解体を突破口に一大国家改造計画をやろうという

ことでは一致している。そういう点からも、今かけられてきている攻撃は未曾有の体制的攻撃である。

国鉄労働者はいかに叩くか

では国鉄労働者は一体どうしたらいいのか。

国労は今年の定期大会においても経過報告が承認されないで運動方針と同時決着になった。スジを通して叩けなかつたらダメになつてしまつと主張する代議員があり、国労はそれなりに健全である。

ところが、動労「本部」は、動労を抱えこんで国労を叩く、という国鉄当局・太田労政の方針にのつて「働こう運動」を全面开花し、ますますオニ鉄労的墮落を深めている。その必然的帰結が「フル・トレ」の裏切りであり、革マルは「フル・トレ」手当を返却するかしないかは問題ではなく、敵の攻撃の本質を知ることが重要だ」などとデータメな総括で組合員を欺瞞している。

たとえ勝利が非常に困難と思えるような課題でも全力を傾注して叩くことを通して前進と強化がかちとれるのだ。「手当返却を他の手当に波及させないため」に、フル・トレ手当を返却する」という動労「本部」のパテン的な理由も、現に国労等が裁判闘争でも断固叩くこの方針を当然にも堅持している事によってすでに破綻してしまつてきている。

「本部」革マルは、「裏取り引きなどしていない」、とくどくどと弁解をくり返している。「動労千葉をついせ」が彼らの唯一の取り引きである。動労「本部」は国鉄25万人体制を見こし、その時点での「ガン」が動労千葉であることをみこして、なんと当局

に「千葉動労を労働組合として認めない」との約束を求めたのである。革マルは、当局の意を全面的に代弁して、労働者組合員を弾圧し、官僚的に統制する労働組合を夢想し、乞い願ひ、当局「鉄労」「動労「本部」の密月支配を追求する道に決定的に踏み切つたのである。

80年代中期の決戦は不可避、三里塚・国鉄決戦を叩く

敵は今決戦を挑んできている。三里塚と国鉄をめぐる攻防戦が80年代日本の動向を決めるという一言ではない。この攻防は自民党を倒す展望を見通すことができる。職場の力関係は職場闘争を通じてかちとれると同時に反戦政治闘争への積極的な取り組みの中でたくましく成長する。こういう時だからこそ原則を曲げず叩く。当面の焦点は三里塚二期着工阻止と57.11改阻止の叩いだ。今から叩きを積み上げ、9月30日10月1日の大会で討議し、57.11の叩きに入り、10.11三里塚闘争へのかつてない大結集をかちとつていこう。

基本答申をもつて攻撃は本格化するだろうが、これを粉砕する道は、国鉄労働者の叩いと反政府反戦闘争が盛り上り結合する情勢をつくることだ。それは何と言つても三里塚・国鉄を基軸とする叩いだ。三里塚は反戦反核闘争を高揚牽引し、改憲阻止の大叩争と結合する80年代中期の中心軸をなす最重要の戦路上のポイントである。我々は、三里塚と国鉄の叩きを存分に爆発させつつ、その中で、船橋市議会・中江運拳を絶対勝利するため全力で叩く。

動労千葉の叩く路線と組合員の底力に絶対の信頼を置き叩く。